



2024年度活動報告書

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

**Special
Olympics**
Nippon



Be with all

TABLE OF CONTENTS

1 2024年度事業におけるピックアップ

今年度行った事業のうち、4つのトピックスをご紹介します

2 SONのアクションプラン事業

SONが掲げているアクションプランのご説明

3 持続可能な競技会/大会の開催と スポーツ活動の充実

「2024年第8回 スペシャルオリンピックス日本 冬季ナショナルゲーム」やスポーツ事業充実に向けた各種取り組みについて

4 Be with allの普及促進

従来のスポーツ事業に加え、各企業、団体の皆様と行った“Be with all”事業について

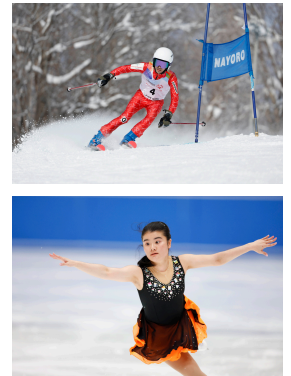
5 ICTを活用した事業推進

アクションプランのもと、ICT技術を活用して取り組んだ事業について

1 スペシャルオリンピックス日本 冬季ナショナルゲーム2024

SONでは“Be with all®”をスローガンに掲げ、さまざまなユニファイド活動に注力しています。また幅広いアスリートが参加でき、社会に開かれた、持続可能な大会というアクションプランに基づき、本大会は2023年11月にフロア競技（長野県）、2024年2月に雪上競技（北海道）、そして同月に氷上競技（長野県）を実施する、“分散開催”を初めて実施しました。

大会中は、ユニファイドスポーツエキシビションや音声解説システムを活用した大会ナビゲーションといった新たな取り組みを行うなど、今後のナショナルゲームの可能性を発見することにもつながりました。



2 ユニファイドスクールの拡大（長野県・愛知県）

通常学級の体育授業において、通常学級の児童たちがルールや場を工夫することで、障害の有無や運動経験、技能の程度に関わらず、誰もが運動を楽しめるということを知り、その経験から共生社会の実現に向けてより良い社会を作りたいという思いを育んでほしいという願いから、2023年より長野県内の小学校でユニファイドスクール事業がスタートしました。

取り組みを広げていくために2024年度はSONナショナルパートナーであるトヨタ自動車や中京大学がある愛知県豊田市で実施することにしました。

実施にあたり、中京大学との産官学をテーマとした取り組みでもご協力いただいた愛知県豊田市に、小学校への案内・募集・選定および広報活動にご協力いただきました。



3 B. LEAGUE連携：ナショナルアクションとエリアアクションの拡充

2018年にパートナーシップ協定を締結し、2022年に発足させた共同プロジェクト“Challenge with ALLプロジェクト”において1月27日SON・東京とアルパルク東京が包括連携協定締結を発表しました。現在、SON・東京とアルパルク東京が連携しながら地域に根差した活動を実施しています。

その他、2023年から愛知県内4つのクラブチームとの連携を開始したSON・愛知では、今年、愛知県内4つのクラブチームで愛知NO.1を決める『AICHI CENTRAL CUP2024』でアスリートが会場入口でプログラム配布するボランティア参加や試合前のPR活動を行うなどを実施、各クラブとの取り組みに加え、4クラブ合同の取り組みも実施することで活動は広がりを見せています。



4 第4期アスリートアンバサダーの始動： やまだひさしさんとの広報取り組み強化

アスリートアンバサダーの活動は2020年9月よりスタートし、コロナ禍でのオンライン中心の取り組みを経て、現在4期目として計5名のアスリートアンバサダーが活躍しています。

第4期の取り組みでは、SONのパートナー企業・団体等、さまざまなステークホルダーとの協働・連携したリアルでの活動の機会をより多く創出し、SOアスリートが主体となった活動に注力しています。

また、SON広報プロジェクトアンバサダーのやまだひさしさんと一緒にPodcast配信をはじめとした、SOの輪を広げる新たなチャレンジを行っています。



SON ACTION PLAN

ユニファイド活動を通して、“Be with all”の実現に向け、持続性のある活動へ

私たちは、知的障害のある人と、ない人が共に取り組むユニファイド活動を通じて、みんなが輝き、誰ひとり取り残さない“Be with all”の社会を目指し、スペシャルオリンピックスの活動を持続性のあるものにしていくことを目標に掲げました。イノベーション事業、スポーツ事業の強化を通じて、障害の有無にかかわらず、共に生きる社会を目指す“Be with all”を推進していきます。

| スポーツ事業 | 持続可能な競技会/大会の開催とスポーツ活動の充実

競技会・大会の定義及び開催方法の再考

地区大会、ブロック大会、ナショナルゲーム、ユニファイドスポーツ大会、世界大会等の各大会の位置付け等を再定義し、下記の3つのポイントを踏まえ、SONと地区組織が連携を図り、アスリートの成長・自立に繋がり、運営面などにおいても持続可能な競技会・大会を構築していきます。

1. 幅広いアスリートが成長できる

2. 社会に開かれている

3. 持続可能

幅広いステークホルダーとの連携、多様な学びの機会を提供、多様なアスリートの参加促進

ユニファイドスポーツの推進

スポーツ活動を通じてユニファイドの理念への理解を深め、意義を共有するため、各ステークホルダーと連携し、体験の提供や参加者の拡大。

コーチ研修制度の充実

アスリートに応じたプログラムの提供とより良いコーチングができるよう、コーチ養成を図ると共に、質の高いコーチを育成する。

多様なアスリートの参加促進

- ①女性アスリートが参加しやすいスポーツを推進。
- ②6～12歳のアスリートがスポーツプログラムへ円滑に移行できるプログラム開発やコーチ養成。
- ③障害や加齢等による運動能力の低いアスリートに対応した基礎的なプログラムを検討。

| イノベーション事業 | “Be with all”の普及促進

Be with all 事業の創出と推進

知的障害のある人とない人が相互理解し、多様な人々が生きる社会を実現するための機会となる“Be with all”事業を創出し、デザインします。

企業や団体との協働事業

知的障害のある人たちのQOL 向上のために、各企業の事業やサービスについて相互理解や、スポーツチーム等とも連携を図り、知的障害のある人たちに社会生活における選択肢やユニファイド活動の機会を創出。

教育機関への普及と国・自治体との連携

若年層へ、多様な人々が共に生きる社会への理解と参加を促進するため、“Be with all/ユニファイド活動”をキーコンセプトとして、教育機関、国・自治体と連携。

広報活動

“Be with all”が多くの方々に理解され、共感する人が増えるよう、企業や他団体との連携事業の提案や情報発信、そして、アスリート自らが発信する等、積極的な広報活動を展開。

| イノベーション事業 | ICTを活用した事業推進

オンライン事業の推進

全国の多様なアスリート、SO 関係者や一般の方々に対して、オンラインを通じたスポーツ活動、教育、研修等に参加できる機会を増やしていく。

アスリートのアクセシビリティを高める

全国の地区組織と連携し、アスリートが安心してオンラインを活用できるようサポートし、SO 活動の参加の幅を広げ、生活の質を高める。



2024年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム

スペシャルオリンピックス日本では、知的障害のある人たちにスポーツトレーニングの成果の発表の場であるナショナルゲームを夏季・冬季4年ごとに開催しており、今回、2025年イタリア・トリノにて開催されるスペシャルオリンピックス冬季世界大会への日本選手団選考を兼ねて、「2024年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム」を開催しました。

、2023年11月にフロア競技を長野県長野市にて開催し、今年2024年2月に、雪上4競技を北海道名寄市、氷上2競技を長野県長野市で実施し、閉幕しました。

雪上競技

日程：2月11日（日）、12日（月）

会場：名寄ピヤシリスキー場、
なよろ健康の森（北海道）

競技：アルペンスキー、スノーボード、
クロスカントリースキー、
スノーシューイング

選手団数：28地区より329名

ボランティア数：延べ430名

氷上競技

日程：2月24日（土）、25日（日）

会場：ビッグハット（長野県）

競技：フィギュアスケート、
ショートトラックスピード
スケート

選手団数：18地区より129名

ボランティア数：延べ607名

（内HAP医療従事者 延べ300名）

ヘルシー・アスリート・プログラム（HAP）

日程：2月24日（土）、25日（日）

会場：ビッグハット（長野県）

部門：フィットフィー、スペシャル
スマイルズ、ファンフィット
ネス、ヘルシーヒアリング、
ヘルスポロモーション、
オープニングアイズ

参加数：91名



フィギュアスケート ユニファイドスポーツ®エキシビション

今大会におけるユニファイド活動という背景に、SONドリームサポーターの小塚崇彦さん（バンクーバー五輪2010・フィギュアスケート）と、高橋成美さん（ソチ五輪2014・フィギュアスケート・ペア）、そしてアスリート4人がコラボレーションした『フィギュアスケート ユニファイドスポーツ® エキシビション』を行いました。エキシビションのフィナーレでは今大会に参加したフィギュアスケートのSOアスリート10人もリンクに上がり、会場からの暖かい手拍子に乗りながら堂々とスケATINGを披露しました。観客席のアスリートからは「次は（小塚さん達と）一緒に滑れるようになるため、一所懸命練習します！」という声も寄せられ、ユニファイドスポーツを通じて、アスリートたちが日ごろの練習に取り組む活力にも繋がりました。

Figure skating

Unified Sports



中京大学、順天堂大学からボランティア参加



包括連携協定を締結している中京大学から学生が競技運営、DAL（デリゲーション・アシスタント・リエゾン）等のボランティアに参加しました。

また、順天堂大学からはメディカルチームが救護ボランティアとして参加いただき、大会に参加するアスリート、コーチ、ボランティアがケガや体調不良時の対応を行っていただき、HAPにおいても順天堂大学生、大学院生がボランティアとして参加、アスリートが計測する際のサポート等を行いました。



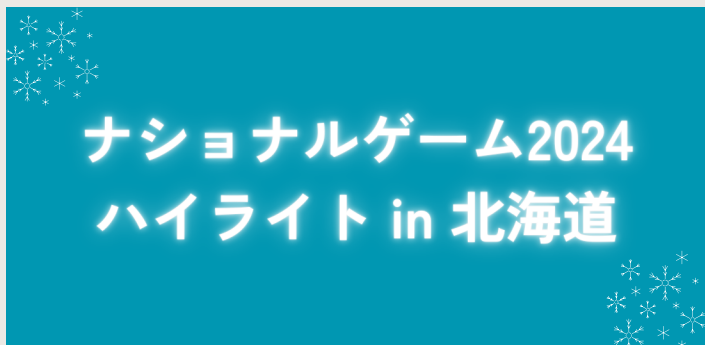
表彰ボランティアの様子



HAP会場でもボランティア



選手団付きボランティアとしても活動！





大会ナビゲーション

今大会のフィギュアスケートとショートトラックスピードスケート競技にて、初めて『大会ナビゲーション』を実施しました。これは、アスリートが頑張る姿やSO競技の特別ルールなどを専用の音声ガイドシステムを用いて、SON広報プロジェクトアンバサダーのやまだひさしさんの進行の元、SONドリームサポーターの小塚崇彦さんと寺尾悟さんが実況・解説を行い、またYouTube Liveでも動画配信することで、会場観客や会場に来られない人たちへ「観戦する楽しさ」を追求、大会を盛り上げることを目的に取り組みました。

会場内外からの「大会の盛り上がり」がSO活動の普及・促進につながり、スポーツを“する”層だけではなく、新たにSOのことを知り“楽しむ”層を増やすことになると考え、SO競技の特徴や見どころ、SOアスリートたちが競技に臨む姿を会場内外に届ける新しい観戦・応援スタイルに挑戦しました。

大会ナビゲーションの様子に加え、先述の『フィギュアスケートユニファイドスポーツ®エキシビション』の動画を大会終了後にアーカイブとしてYouTubeに公開し、エキシビション動画は公開日に2,000回以上再生されました。



やまださんと平岡理事長

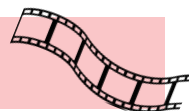


左から：小塚崇彦さん、寺尾悟さん、やまだひさしさん



Check it out!

映像はこちらから、ご視聴いただけます。



2025年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノ派遣事業

2025年3月8日～15日にイタリア共和国・トリノで開催される「2025年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノ」が開催されます。本大会にはスペシャルオリンピックス(SO)日本選手団として56名(アスリートとパートナー32名、コーチ17名、役員・選手団スタッフ等7名)を派遣します。

今年9月21～23日に東京都で第1回の合同合宿を行い、チームビルディングを中心とした合宿メニューを実施しました。

11月2～4日に競技別合宿を埼玉県羽生市(フロアボール(ユニファイドスポーツ®))、岩手県盛岡市(氷上競技)で行いました。

12月20～22日には雪上競技(アルペンスキー、クロスカントリースキー、スノーボード、スノーシューイング)を岩手県八幡平市で行います。



9月合宿ではHAPの1部門である、基礎的な健康診断を行う「メドフェスト」をSO日本選手団を対象に実施、加えて都内近郊在住のアスリートやファミリーにも公開メドフェストを行いました。

11月、SO日本選手団の特設ウェブサイトを開きました。大会概要、競技の見どころ、選手団プロフィールなどを紹介しています。

<https://sowg2025.son.or.jp/>



PRODUCTIVE SPORTS ACTIVITIES

｜スポーツ事業｜スポーツ活動の充実

ユニファイドスポーツ・ウェビナー 2024

ユニファイドスポーツの普及と理解促進を目的に、10月5、6日の2日間に渡って、対面型の「ユニファイドスポーツ・アクティブセミナー」の開催、並びに、10月31日と11月28日に「ユニファイドスポーツ・ウェビナー 2024」を開催しました。

「ユニファイドスポーツ・アクティブセミナー」では、1日目にユニファイドスポーツの競技会運営をテーマに、2日目は、ユニファイドスポーツ・レクリエーションをテーマに、詳しく理解していただくための講演や実技、演習を行いました。

「ユニファイドスポーツ・ウェビナー 2024」では、ユニファイドスポーツの取り組み事例の紹介として、SONが行っている学校連携事業の内容と本事業を通じた可能性についてお伝えしました。



ユニファイドスポーツ®アクティブセミナー参加者



ディスカッションの様子



実技も行いました

ヤングアスリート（YA）紹介動画作成報告

ヤングアスリート（YA）とはSOプログラムの一つであり、2歳から7歳の幼児期の子どもたちを対象にしたスポーツと遊びを融合させたユニークな活動です。ゲームや歌などを取り入れたプログラムで楽しく身体を動かしながら、子どもたちは運動能力の基礎であるボールを蹴ったり投げたりするスキルや、他の子どもたちとプレーすることを、参加しながら身に付けていきます。また、YAでは障害のない子どもたちも一緒に活動しますのでユニファイドなプログラムとなっています。

この取り組みを全国へ普及していくため、紹介動画を作成しました。YAが持つあたたかさや楽しさがつまった約2分半の動画となり、SONも公式HPやSNSにて公開しました。今後、YAに関連するイベント等でも投影しながら普及活動を実施していく予定です。

動画制作：AOI Pro.



Check it out

こちらから
ご視聴いただけます。



ユニファイドスクール

小学校連携

ユニファイドスクールとは、小学校から大学までの教育機関と連携し、ユニファイドスポーツ®の機会を児童、学生や教育機関関係者に提供することで、スポーツを通じて知的障害のある人となない人の相互理解を深め、その結果としてインクルージョン社会を促進させることを目的として立ち上げた取り組みです。SONでは2023年に引き続き、小学校でのユニファイドスクール事業を下記4校で行い、合計369名の児童が参加しました。

学校名	学年	人数（内・特別支援学級）	時間数
駒ヶ根市立中沢小学校 （長野県）	3年生 4年生 はなももの里分教室	11名 11名 10名	10時間
豊田市立冷田小学校 （愛知県）	3年生 1～2、4～6学年	5名 35名（1名）	18時間
豊田市立根川小学校 （愛知県）	4年生 5年生 6年生	76名（3名） 74名（2名） 87名（1名）	11時間
豊田市立野見小学校 （愛知県）	4年生	60名（4名）	10時間

中京大学連携

包括連携協定を締結している中京大学の来田ゼミの学生が年間を通してSONの活動に参加しました。春学期は「スペシャルオリンピックスを知る」ことから始め、平岡理事長によるオンライン講演会やSO国際本部（SOI）ラーニングポータル受講、また、SON・愛知のアスリートたちとユニファイドフロアボール体験会等を行いました。秋学期は実践の場として、小学校連携の根川小学校、野見小学校の授業の一部を担当しました。



参加にあたり自己紹介



フロアボール体験会開始前



学生が児童へレクチャー

ドリームサポーターのユニファイドスクール参加

SONドリームサポーターの寺尾悟さん、小塚崇彦さんが豊田市内の冷田小学校、根川小学校、野見小学校のユニファイドスクールに訪問しました。寺尾さんは冷田小学校を訪問し、児童が考えた「だれでも楽しむことのできるフロアボール個人スキル競技」の体験会・ふりかえりの授業に参加しました。ふりかえりの授業では、体験会の感想やSONドリームサポーターとして活動始めたきっかけ等をお話し、児童たちにユニファイドスクール終了証授与を行いました。

根川小学校、野見小学校では、単元内に講演会の時間を設け、トヨタグループ株式会社に勤務しSON・愛知で競技に参加しているアスリートとコーチ、そしてSONドリームサポーターの小塚崇彦さんがゲストスピーカーとして講演しました。根川小学校は4～6年生とその保護者約260名が参加、野見小学校では4年生約60名が参加しました。SO活動の意義や魅力について児童に講演し、また、児童からの様々な質問に答えました。



寺尾悟さんと児童



小塚崇彦さんの講演

PROMOTING "BE WITH ALL" PROJECTS

｜イノベーション事業｜ Be with allの普及促進



新たなパートナーシップ企業（2社）

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社との間でプレミアムスポンサーのパートナーシップ契約を締結いたしました。



三井住友信託銀行株式会社との間でプレミアムスポンサーのパートナーシップ契約を締結いたしました。



今後、コカ・コーラ ボトラーズジャパン様、三井住友信託銀行様と協働しながら、知的障害のある人たちが活躍する場を増やし、障害のあるなしに関わらず、多様な人々がお互いの存在や個性、違いなどを認め合える「インクルージョン社会」の実現を目指してまいります。

第4期アスリートアンバサダーの活動

アスリートアンバサダーは、アスリート自身がSO活動で経験したことや想いを発信し、今よりも広く多くの方にSO活動、そしてアスリートのことを知っていただけるよう、年間を通してさまざまな活動を行っています。また、本来の持っている力を発揮する機会や、より成長できるようなプログラムを提供し、アスリートたちが学び、チャレンジしていく姿を発信しています。

アスリートアンバサダーの活動は2020年9月よりスタートし、コロナ禍でのオンライン中心の取り組みを経て現在4期目として計5名のアスリートアンバサダーが活躍しています。

第4期の取り組みでは、これまで以上に、SONのパートナー企業・団体等、多様なステークホルダーとの協働・連携したリアルな現場での活動の機会をより多く創出していくこと、またラジオDJであり、SON広報プロジェクトアンバサダーである、やまだひさしさんと一緒に新しい広報の取り組み（Podcast番組やYouTubeでの発信等）を実施していくなどの挑戦をしていきます。

第4期アスリートアンバサダー活動の様子

トヨタ・早川茂 副会長との対談



SON30周年を記念した対談を実施！アスリートアンバサダーが進行を務め、早川副会長のSO活動への思いなど、お話を伺いました。

エニタイムフィットネス様 寄付金贈呈式に出席



ご寄付いただいたチャリティランナーの方々に感謝の気持ちをお伝え！日頃のスポーツプログラムの様子などを自分たちの言葉でお話するなど、SOをPRしました。

「Special Movie ALIVE #1」の 早川千絵監督と座談会



東京レガシーハーフマラソン2024 でPR活動



今後も、沢山の現場に足を運び、アスリート自身の言葉でSOやアスリートの魅力を届けていきます！

やまだひさしさん・広報プロジェクトアンバサダー就任

喋り屋・ラジオDJとしてご活躍されている、やまだひさしさんに第4期アスリートアンバサダー活動を中心にSOの輪を広げる「SON広報プロジェクトアンバサダー」へ就任しました。

やまだひさしさんは、2023年11月、2024年2月開催の「スペシャルオリンピックス2024・長野」において「大会ナビゲーター」として開閉会セレモニーの司会や競技会場での大会盛り上げにご尽力いただきました。大会ナビゲーションは競技の様子やアスリートたちの魅力を最大限に引き出し、YouTube Live配信を通じて多くの方々に届けていただきました。

今回、やまださんには「SON広報プロジェクトアンバサダー」として、第4期アスリートアンバサダー活動への協働を中心に、色々な形でSONの広報活動にお力添えいただきます。



新広報 | Podcast配信

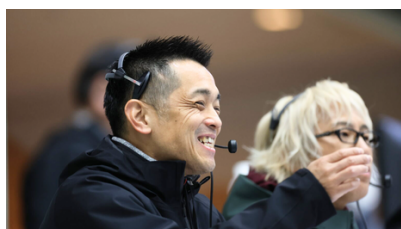
今回新たな広報として、やまだひさしさんがパーソナリティを務めるPodcast番組「スペシャルオリンピックスって何？」（全8回配信予定）をスタートします。

SON30周年を迎え、改めて、これまでの広報の取り組みではなかなか伝えきれなかった、SOの歩みや海外との違い、今後の課題などをより深くSOを知ってもらえるよう、やまださんのトークで楽しく、分かりやすく届け、本番組の配信を全てお聞きいただくとSOのことを理解できる番組を配信していく予定です。



配信に向けて準備中です！

寺尾 悟さんがSON ドリームサポーターに就任



寺尾 悟さんがSON ドリームサポーターへ就任しました。

寺尾さんは、1994年リレハンメル五輪から4大会連続ショートトラックスピードスケートに出場され、現在はトヨタ自動車スケート部のアドバイザーとしてご尽力されています。

SONでの活動においてはスペシャルオリンピックス2024長野（氷上競技）の会場で「大会ナビゲーション」の解説としてもご参加いただき、競技の様子やアスリートの頑張りをお伝えいただきました。

Challenge with ALL プロジェクトの広がり

ナショナルアクション | Challenge with ALL実施地区の参加

B.LEAGUE連携におけるナショナルアクションとして、年間チャンピオンを決める

B.LEAGUE FINALS2023-24において、ユニファイドスポーツ・バスケットボールゲームを実施しました。夢のような大舞台に、各地域でChallenge with ALLプロジェクトに取り組んできたSON・京都とSON・沖縄のアスリートたちが参加し、B.LEAGUE選手と特別チームをつくり、試合を実施しました。Challenge with ALLプロジェクトの実施を通し、より多くの全国のアスリートにB.LEAGUE FINALSのようなイベントへの参加機会も創出されました。



エリアアクション | SON・東京とアルバルク東京のパートナー締結

2024年1月27日SON・東京とアルバルク東京が包括連携協定締結を発表しました。同日、アルバルク東京の試合で行われた「SOデー」のハーフタイムで、アルバルクチアリーダーとSON・東京の競技チアのアスリートたちが合同パフォーマンスを披露しました。

締結後は、SON・東京とアルバルク東京が連携しながら地域に根差した活動を実施しています。アルバルク東京のスタッフは、SON・東京のボランティアとして登録し、バスケットボールに関わらず興味のあるスポーツプログラムへ参加したり、地区大会の大会ボランティアとして参加しています。



エリアアクション | SON・愛知と県内4クラブの連携の活性



2023年から県内4つのクラブチームとの連携を開始したSON・愛知では、各クラブと様々な連携を実施しています。昨年は試合前にファンとSOアスリートと一緒にバスケットボールを楽しむユニファイドクリニック、クラブチームの選手やコーチによるSON・愛知のバスケットボールプログラムでのアスリートへの指導、クラブチームホームゲームにおけるハーフタイムでの活動PRやブース出展等を実施してきました。

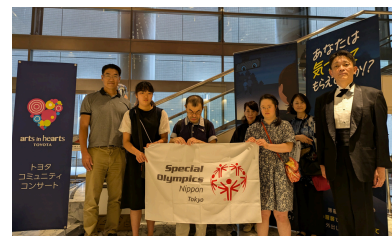
そして今年は、愛知県内4つのクラブチームで愛知NO.1を決める『AICHI CENTRAL CUP 2024』において、アスリートが入場口で観客にプログラム配布を行うボランティアを行いました。アスリートたちは、ボランティア活動後、試合開始前のPRタイムにおいて「私たちはスポーツが大好きです。スポーツと楽しむ気持ちは同じです」と発信しました。各クラブとの取り組みに加え、4クラブ合同の取り組みも実施することで活動は広がりを見せています。

トヨタコミュニティコンサート

トヨタに7つの地区組織のアスリート、ファミリーを『トヨタコミュニティコンサート』にご招待いただきました。音楽を通して、楽しい気持ち、幸せな気持ちになってもらうこと、音楽を聴く機会の少ない人や地域、全国各地のアマチュアオーケストラ、地元のトヨタ販売店のつながりによるサステナブルな地域づくりを目指して本取組を実施しています。

参加したアスリートからは「ご招待、ありがとうございました。特別に丸の内交響楽団の方と写真撮影ができ、とても、うれしかったです。初めて聴いたパイプオルガンの音色が、とても、素敵でした。私は、ヴァイオリンを習っているのですが、丸の内交響楽団の皆さんのように上手に弾けるようになります。そして、いつの日か一緒にヴァイオリンが弾けたら最高です。」という感想がありました。

【招待地区】福島、宮城、東京、山梨、愛知、島根、岡山



芸術花火～地域の人と交流しながら花火を見てみよう！

アスリートが、地域の人たちやトヨタ社員の方々と一緒に花火鑑賞、そして花火鑑賞後のボランティア活動をおこなう取り組みを行いました。「芸術花火」は、SONドリームサポーター・小塚崇彦さんが、スペシャルプロジェクトリーダーとして携わっており、花火と音楽がシンクロするプログラムが特徴の花火大会シリーズです。花火鑑賞を通して地域の方々と交流しながら楽しい時間を過ごすこと、また花火鑑賞後に会場の撤収作業・清掃等のボランティア活動を行い、相互理解に繋がる機会として実施しました。

参加したアスリートからは、「いつものスポーツプログラム活動や日々の生活とは違い、大勢の人々が集まるイベントで、非日常を楽しむことができました。」という感想があり、スポーツの場だけではないアスリートたちの交流の機会として、貴重な経験となりました。



トヨタの皆様と集合写真 in 宮城



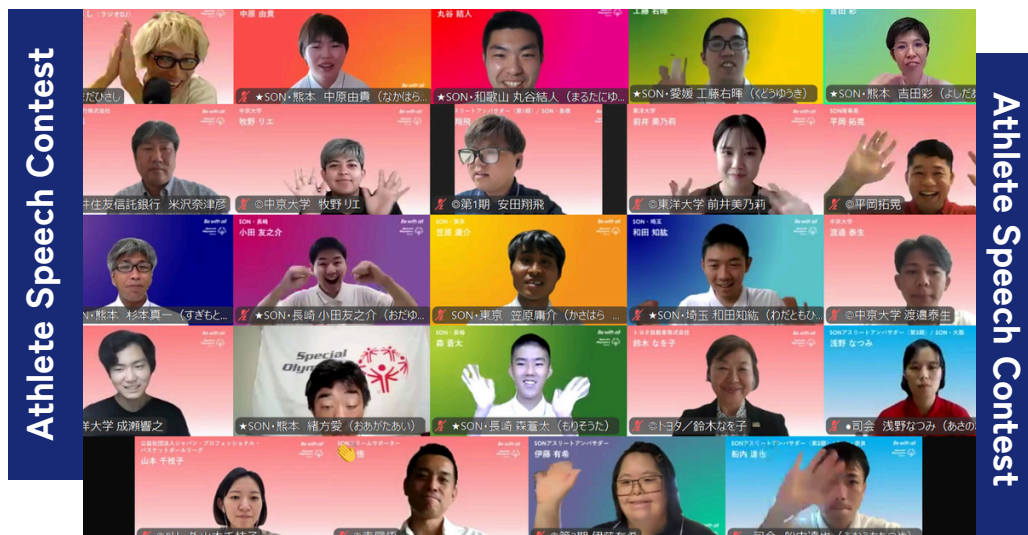
花火会場にて in 北海道

アスリートストーリー発表 2024

アスリートの発信・交流の場として「アスリートストーリー発表会2024」を開催しました。全国からアスリート10名が参加し、「日頃参加しているプログラムについて」や「新しく挑戦していること」など、自分たちで考えたテーマに合わせてスピーチを発表しました。2021年よりアスリート・リーダーシップ・プログラムの一環として始動し、今回が3回目となる本発表会ですが、今回は日頃からSO活動を応援いただいている支援企業・団体の方々に加え、大学生やSONアスリートアンバサダー（第1期・第2期）にも審査員を務めていただき、より幅広い年代の皆さんにアスリートたちの思いやチャレンジする姿を届けることができました。また、第3期SONアスリートアンバサダーが司会進行を行い、第4期SONアスリートアンバサダーがSONの広報発表を担当するなど、これまで以上にアスリートたち自身が作り上げた発表会となりました。

【同時視聴数（YouTube Live中）】最大73名／平均62名

【視聴回数】800回以上再生



Check it out

ダイジェスト版は右のQRコードからご視聴いただけます



フル版は左のQRコードからご視聴いただけます。

PROMOTING PROJECTS WITH ICT

｜イノベーション事業｜ ICTを活用した事業推進



スペシャルオリンピックス日本 2024年オンラインボウリング記録会

SONボウリング部会を中心に、多様なアスリートが全国のアスリートと競い合える機会として、2024年オンラインボウリング記録会を開催しました。

本記録会開催の目的の1つとして、全国のアスリートと競い合いたいけれども、生活面に不安があり、宿泊を伴う大会への参加を見合わせているアスリートがいます。

そういった状況を鑑みて、全国各地で活動しているアスリート達が競い合う機会として、各地区で活動しているボウリング場にて取った競技スコアを集計し、そのスコアを基にディビジョニング（クラス分け）を行い、全国のアスリートとスコア記録を競い合うオンライン型の記録会を開催しました。

2022年に続く第2回目の開催となり、全国34地区977名のアスリートが参加しました。

競技種目：ボウリング シングルス

開催日程：9月17日 エントリー締め切り

10月上旬 ディビジョニング（クラス分け）発表

10月15日～11月30日 競技期間

11月30日 決勝スコア提出締め切り

12月下旬 競技結果の発表



コーチ研修制度参加者

日常のスポーツトレーニングをサポートするコーチを対象として、指導者養成に取り組んでおり、現在オンデマンドの研修を導入しています。2024年度は下表のとおり実施しました（2024年11月12日時点）。

内容	開催地区	競技数	回数	参加総人数
コーチクリニック競技対面	33地区	24競技	81回	807名
GOA（オンデマンド）	—	—	—	591名
認定コーチ更新講習（オンデマンド）	—	—	—	482名
ユニファイドスポーツコーチクリニック（オンデマンド）	—	—	—	40名

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 2024年度 活動概要

Special
Olympics
Nippon



アスリート/パートナー ATHLETES/PARTNERS

アスリート数

7,766

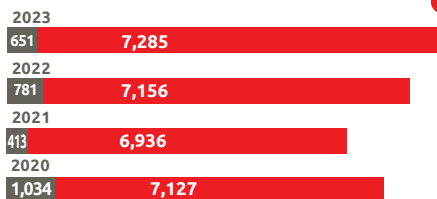
ユニファイドパートナー

897

合計

8,663

合計 ■ アスリート ■ パートナー



ユニファイドスポーツ UNIFIED SPORTS

チームメイト合計

1,621

ユニファイドアスリート

724

ユニファイドパートナー

897

実施地区 25



ヤングアスリート YOUNG ATHLETES

154

実施地区 9

大会・競技会数

COMPETITIONS

206

ユニファイド競技数

12



国内活動

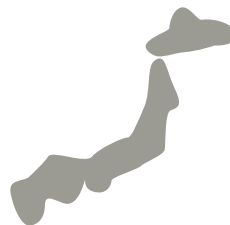
Domestic activities

都道府県

47

市区町村

303



アスリートリーダーシップ

ATHLETES LEADERSHIP

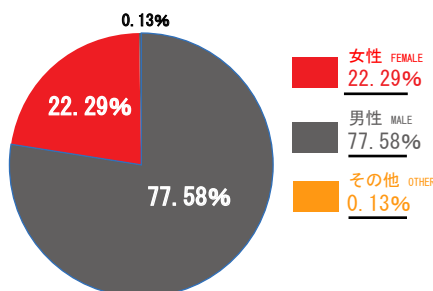
アスリートリーダー数

181



アスリート男女比

ATHLETES GENDER



ボランティア数

VOLUNTEERS

10,283

コーチ数

4,728

ユースボランティア数

1,113



学校連携

school collaboration

40

ユニファイド活動校数

12

ユースリーダー数
(8-25歳)

120



ファミリーリーダーシップ

FAMILY LEADERSHIP

ファミリーリーダー数

1,612

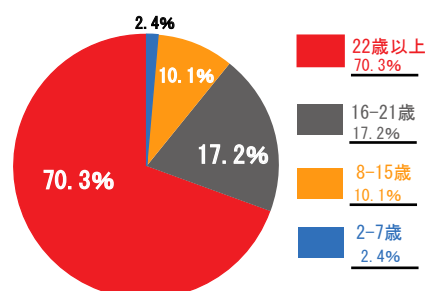
登録ファミリー数

9,801



アスリート年齢比

ATHLETES AGE



SONパートナー企業・団体

ナショナルパートナー

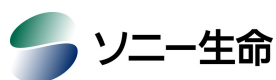


LifeWear

TOYOTA

AOI Pro.

SoftBank



Lions Clubs
International



プレミアスポンサー



フレンドシップスポンサー

三井住友海上火災保険株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、SCSK株式会社
新日本空調株式会社、株式会社セールスフォース・ジャパン

Special Olympics Nippon